

人民革命の時代を

ともに切り開こう

一九九〇年五月三〇日—日本赤軍

冷戦構造の崩壊は、ヨーロッパを中心に、
或いは社会主義の問題として論じられがちだ
が、第三世界の解放闘争にも大きな影響を及
ぼしている。そうした観点から問題を考える
ために、日本赤軍の論文「人民革命の時代を
ともに切り開こう」の要旨を紹介する。

パレスチナ革命をとり、
まく情勢は、大きく変化
しています。とくに、昨
年末の東欧における激変
は、パレスチナ革命のみ
ならず、世界の人民の大
たかひへ大きな影響を与
えています。

東欧の激変は、一方に
おいて、人民が歴史的原
動力であることを、パレ
スチナ革命の発展と同様
に、示していることで
す。すなわち、人民の時
代が切り開かれていたこ
とを示しています。他方
においては、東欧におけ
る人民革命の発展が未成
熟な分、帝国主義とシ
オニズムがそれを利用し
ようとしていることです。

東・欧・の
民主化運動

私たちの課題は何か

東欧の激動と パレスチナ革命

東欧の激変は、人民が
主権者となり得ていなか
った、「社会主義」を拒否

人民自身の手、主
権を獲得しようとするた
かひとしてでありまし
た。いかに「社会主義」
を名のろうとも、人民の
意志を踏みにじるもの
は、歴史のこみ相へとは
うりこまれてしまったこ
を示しました。これは、
パレスチナの人々が、
「東欧の人々は自分達の
石つぶてのたかひを争
んだのだ」と誇りをもち
て語るように、人民の抑
圧者に対する共通の意志
を示しています。

しかしながら、この東
欧の人民革命が急激に進
行した分、人民の解放を
実現する主体の発展が遅
れていました。それは、帝
国主義に対して、経済的
な困難からの従属的な政
策をとり、また、シオニ
ズムに対しても、その物
質的な力の前に従属する
ような政策をとることに
なっています。帝国主義
とシオニズムは、それを
最大限に利用しています。
帝国主義は、東ドイ
ツの選挙に明確に見ら
れたように、直接的に介
入し、その物量をもつ
て、他の勢力を圧倒し、
資本主義の幻想をふりま
すことにより、選挙を
乗っ取ってしまいました。
また、シオニズム
は、世界シオニズムの力
をもつて、東欧への政
治、経済に介入し、一連
の東欧とイスラエルの外



不屈に続くインテリファード

交関係の回復に成功し、
また、ソ連のユダヤ人の
移民をパレスチナにむけ
ることに成功していま
す。

この問題は、中央集
権的な計画経済の問題で
は、出発点として、資本
主義的な浪費や不安定さ
を克服し、より効率的
で、安定した経済をつ
くりだすことを困難に
しています。

東欧の激変の根本的な
問題は、ソ連、東欧での
社会主義のあり方の中に
あります。社会主義、共
産主義という人類を解放
する思想をもつて社会を
つくりだしていた諸国
が、実際には、人民が革
命と社会の主人公である
という根本的原理をわ
すれたあり方になり、そ
の激変が問われたので
す。

東欧の人民は根本的に
は、三つのことを要求し
ました。第一には、一党
支配の問題です。一党支
配が人民を解放するもの
ではなく、人民を抑圧す
るものになってきたこと
です。もとより、プロレ
タリア独裁、プロレタリア
アートの政治権力の保持

は、住民の多数をしめる
労働者階級による支配、
すなわち、より徹底した
民主主義を実現するもの
としてありました。しか
し、それが党の独裁とな
り、また、労働者階級の
前衛である党が、その利益
の体現者である党が、実際
には労働者階級の利益
に合致しないあり方にな
っていったことです。その
根本として、党は、進ん
だ前衛であり、おくれた
人民を指導する」という
図式は、実際には、党が

比の転換による被占領地
の「民主的」併合の可能
性を拡大させていくこと
になるのです。

第二の問題は、中央集
権的な計画経済の問題で
は、出発点として、資本
主義的な浪費や不安定さ
を克服し、より効率的
で、安定した経済をつ
くりだすことを困難に
しています。

第三の問題は、民族自
決の問題です。社会主義
諸国では、ソ連を中心
にした社会主義共同体と

容な態度は、抑圧的なも
のとはありませんでした。
これは、共産主義がめざ
す、人民自身が決定し、
実行することによって、
官僚機構という特殊な存
在を消滅させるという思
想にまったく反した。すな
わち、人民にまったく、こ
のような経済が自分達の
ための経済である、と考
えることが、まったくで
きないものとなっていた
のです。反対に、官僚は
その特権を利用して、人
民を支配し、搾取するこ
とが可能になっていたの
です。

東欧における人民革命
の発展は、未だ帝国主義
とシオニズムがふりま
す、資本主義の幻想のな
かにもあります。しかし、
現在の東欧人民革命で東
欧人民が示したように、
人民はその幻想をやぶっ
て前進するでしょう。そ
して、そのと、パレス
チナ民族解放をめざす人
民革命とひとつになるこ
とができます。

ソ連・東欧での 社会主義のあり方の問題

党の不断の 自己変革と自己批判

帝国主義本国で 徹底した民主主義を

とにより、困難にある東
欧や第三世界の人民革命
を支援しつつ、一体にな
って、勝利に向かって前
進していくことができる
のです。そして、それ
は、帝国主義による軍事
的、経済的な力による人
民革命の暴発、シオニ
ズムによる暴発を阻止し、
発展させることができる
のです。

われわれに問われてい
ることは、帝国主義本国
における民主主義の徹底
をあらゆる分野で実現
し、人民の主権を確立
し、共生の道をもとめる
ことです。

しかし、日本の人民革
命における根本的な問題
も、共産主義者の党の在
り方にもあります。とり
わけ、人民のたかひを統
一する要になるべき党
が、分裂の原因となり、
また、内ゲバなどの問題
を引き起こすなど否定的
な在り方をつくってしま
い、それが人民革命の
前進を阻む主体的な問題
となっていました。その
日本共産主義者の在り方
の問題にも無謬の党観の
問題が中心にあることを
示した。われわれは、自己
批判、党の革命を指導性
とする党の在り方、革命
と社会の主人公である人
民に対する党の役割の問
題としてとらえ返してき
ました。

いまこそ、われわれ
は、日本の人民革命に勝
利し、困難に陥られてい
る東欧の人民革命、第三
世界の人民革命と、これま
で、世界の在り方を否定
し、新たな党をつくりだ
さなければなりません。